番兵B12 らくらくセット 設置説明書

セット内容 と 部品の名称（100m 2段張り）

①キャリーバッグ

②グラファイポール（25本）

③ピッグテールポール（2本）

④アース（1本）

⑤クイッククリップ（50個）

⑥ゲートハンドル（2個）

⑦ポリワイヤー200m巻（1巻）

⑧パワーユニット番兵B12

⑨外部バッテリー接続ケーブル（1本）

⑩リング碍子（10個）

⑪簡易緊張具（2個）

⑫危険表示板（2枚）

⑬取扱説明書・保証書

追 加 資 材

《延長フェンスキット》

延長フェンスで100m2段張り資材がすべて含まれています。
※パワーユニットは含まれていません。
※グラファイポール8型

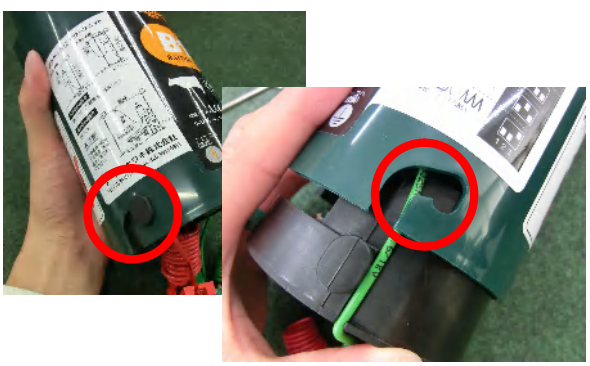
【セット内容】
・ホワイトワイヤー200m巻（1巻）
・グラファイポール（25本）
・クイッククリップ（50個）
・簡易緊張具（2個）
・危険表示板（1枚）
・リング碍子（10個）

《段数追加キット》

100mフェンスなら2段、200mフェンスなら1段追加できます。
タヌキ、はくびしん対策必需品。

【セット内容】
・ホワイトワイヤー200m巻（1巻）
・クイッククリップ（50個）
・簡易緊張具（2個）
・リング碍子（10個）
・ゲートハンドル（2個）

パワーユニット本体の開閉方法



※電源がOFFになっているのを確認してから行って下さい。

本体内側の部品は、カバーの〇印の部分に引っ掛けてありますので、上に押し上げてから、左方向に回して頂き、そのまま下に引いて下さい。

外部バッテリーアダプターは乾電池収納部に入っておりますので、取り出してご使用下さい。

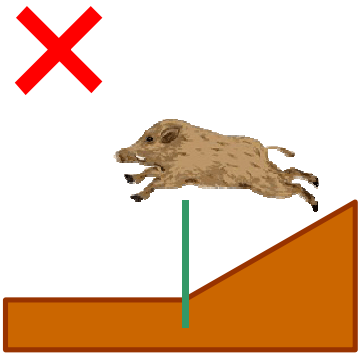
乾電池をセットしたら、カバーを開ける時と逆の手順で閉めます。

設置についての注意事項

設置場所の注意

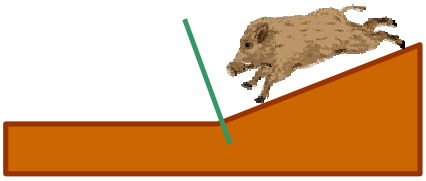
●斜面がある場合

斜面から電気柵までの距離が近いと、乗り越えられたり、電気に驚いた動物の逃げ場が失われて、フェンスを壊される恐れがあります。



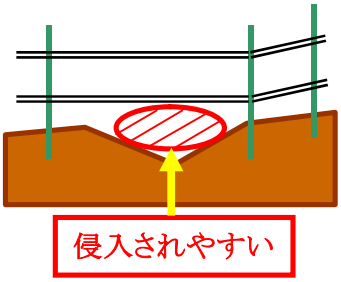
○ 斜面から離れたところに設置します。

○ 地面に垂直に設置し、乗り越えられないようにします。

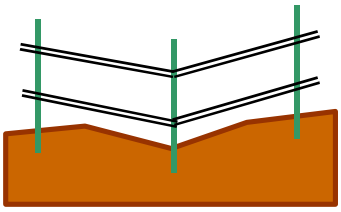


●地面に凸凹・段差がある場合

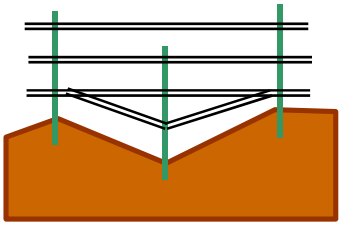
場所によって電気柵の下に隙間ができたり、高さが不十分な部分が生じることがあります。電気柵の下に隙間ができると、動物は電気柵の下を掘ってくぐったり、侵入しようとします。



○ 段差が緩やかな場合は地形に合わせて設置します。



○ 段差が急な場合はワイヤーを一段追加して設置します。

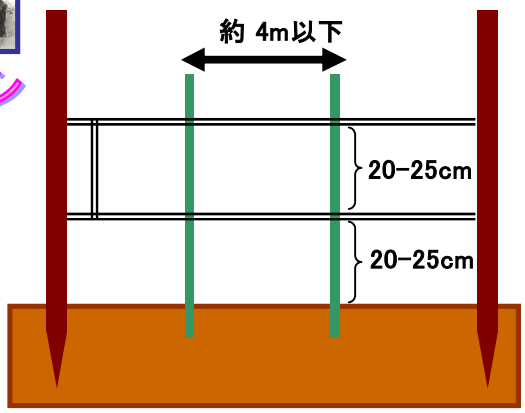


動物別の段数・ポール設置間隔

対象とする動物によってポリワイヤーの高さ・ポールの間隔が異なります。対象動物の胸の高さが最も効果がある高さですので、架線する段数を考慮して高さを決めてください。

・イノシシ

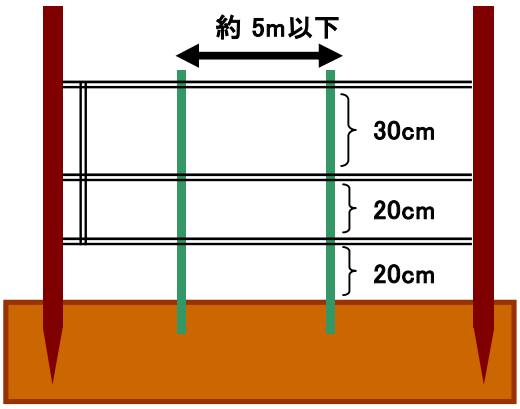
【２段張り】



※被害の多い地域では3段張りがお勧め
（高さは20cm間隔）

・クマ
・キツネ
・アライグマ
・タヌキ

【３段張り】



※被害の多い地域では4段張りがお勧め
（高さは15cm間隔）

農地・水保全管理の専門店「楽屋農」
（運営）株式会社白崎コーポレーション
http://www.nouchi-mizu.jp

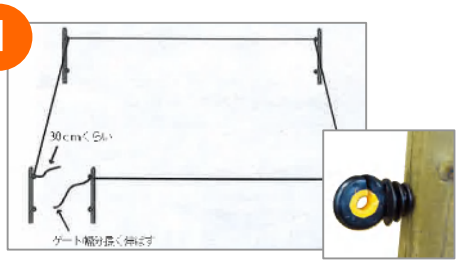
電気柵設置方法

前準備

①電気柵を設置する場所、及び外側2～3mの雑草を刈り取っておきます。雑草を刈り取ることにより、漏電防止のほか電気柵の視認性を上げ、防除効果を高めます。　※雑草対策には、『電気柵専用草なしシート』の併用がオススメです。

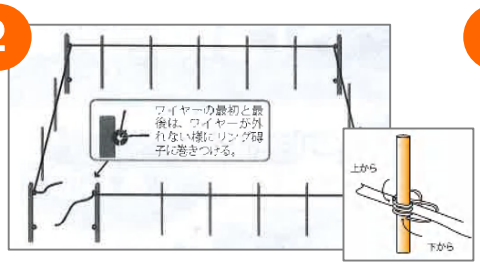
②グラファイポールに『クリップ』を取り付けておきます。（地面打込み位置とクリップ取付位置に印をつけておくと良いです。）角杭にもあらかじめ『リング碍子』を取り付けておくと良いのですが、地盤の固さにより打込める深さが変わってきますので、印だけつけておき、打込み後に調整します。対象動物によって、段数間隔がかわってきますので『設置についての注意事項』をご確認下さい。

1



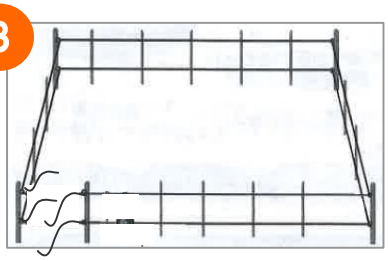
柵の角になる地点にたる木等を設置し、リング碍子をねじ込みます。
ゲート部分の支柱からワイヤーを張っていきます。スタートのワイヤーは30cm程伸ばしておいて下さい。※最後に上段と下段を連結するためです。最初と最後の杭以外はワイヤーを碍子に巻きつけません。※イノシシ等がぶつかった時にワイヤー全体が伸びワイヤー切れを最小限にするためです。

2



対象動物に合わせた間隔でグラファイポールを設置します。起伏の多い場所に設置する場合は添付資料『設置についての注意事項』を参考にして下さい。
クリップにワイヤーを通していきます。

3



同じように下段のワイヤーも架線します。
この時、ワイヤーはつなげたまま使用せず、1段ずつ切断して設置して下さい。
※ワイヤーをつなげたまま使用すると、十分な電気量が送られず電圧低下の原因となります。

4

『簡易緊張具』にワイヤーを巻き付けて緊張をかけます。ワイヤーが垂れない程度で十分です。
簡易緊張具の取付位置はワイヤーを張った中央です。
『きけん表示板』を目につきやすい所に設置します。

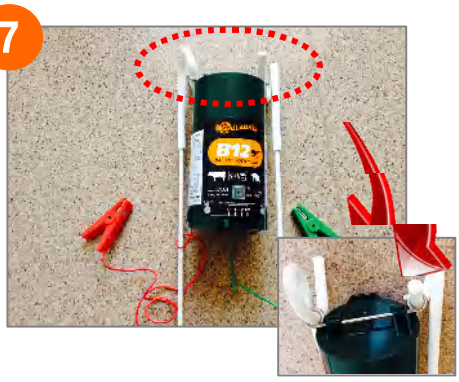
5

100m間隔で上段と下段をワイヤーで連結します。
短いワイヤーを使って、すべての段のワイヤーを接続します。張ってあるワイヤーに短いワイヤーをしっかりと巻きつけ、結んでその後絶縁テープでとめます。

6

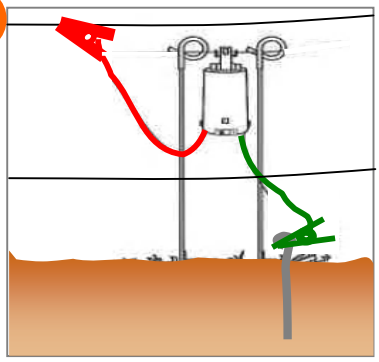
ゲートハンドルにワイヤー数回巻き付けてから結びます。ワイヤーの端末はステンレス線をむき出しにし、処理します。ゲートハンドルは、リング碍子に引っ掛けます。

7



『パワーユニットB12』の電源をOFFにして、本体を開けアルカリ乾電池6本をセットします。本体についている吊り下げハンガーの両側の輪に『ピッグテールポール』を通し、地面に設置します。パワーユニットは点検が楽にできる場所で、動物侵入の反対側に設置して下さい。

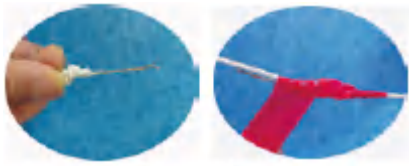
8



『アース』を埋め込み、パワーユニットの赤色のワニロクリップをワイヤーに接続し、緑色のワニロクリップをアースに接続します。
パワーユニットの電源を入れ、通電されていることを確認して下さい。
【通電確認方法】
イネ科の葉を20cm位でちぎり、接触します。遠方から近づけていくと通電を感じます。

ワイヤーの結線方法

ワイヤーを結び、ワイヤーの端をライターなどで溶かして引っ張ると、ポリエチレン部分だけ外れます。



導線をより合わし、ビニールテープで固定します。

農地・水保全管理の専門店「楽屋農」
（運営）株式会社白崎コーポレーション
http://www.nouchi-mizu.jp